

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料

保健体育

令和 6 年 7 月

教科用図書南那珂採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「保健編」の2つの章と「体育編」の1つの章でまとめてあり、特に学習内容と関わりある時期に学ぶことができるような構成の工夫が見られる。 (2) 単元の配列に関しては、1単位時間の流れとして「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、さらに「巻末スキルブック」を設け、実生活で活用できるような工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の1つの章と「保健編」の2つの章でまとめてあり、多くの口絵を設けることで、生徒の興味・関心を高める効果的な構成の工夫がなされている。 (2) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかもう」「話し合ってみよう等」「活用して深めよう」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、章末には「学びを活かそう」で身近な日常生活に活用を促すような工夫が見られる。
50 大 修 館	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育理論」の1つの章と「保健」の2つの章でまとめてあり、さらに、3年間における各学年の保健の学習時間が均等になるような構成の工夫が見られる。 (2) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、各章末には「章のまとめ」を設け、評価の3観点による内容の理解や定着、活用を促すような工夫が見られる。

224 学 研	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の1つの章と「保健編」の2つの章でまとめてあり、学年毎に学習したことを振り返ることができるような構成の工夫がなされている。 (2) 単元の配列に関しては、小单元ごとに「ウォームアップ」「エクササイズ」「学びを生かす」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、「探究しようよ」で課題解決学習を取り入れ、より深まった学びにつながるような工夫が見られる。
---------	---

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「見つける」では、日常経験や既習事項を基に課題を捉えさせることで、主体的に解決に取り組むことができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「課題の解決」では、段階的な発問を設け、資料や2次元コードを基に確認することや考えること、話し合う活動を通して理解を深められる工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単位ごとに「活用する」「広げる」を設定し、学習を通して習得した知識・技能を活用し、再考するなどの実践力を育む工夫が見られる。
4 大日本	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「つかもう」、「やってみよう」又は「話し合ってみよう」、「活用してみよう」を設定し、この流れで学習を進められるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、本文と資料を分けて掲載している。また、大単位ごとに「学習のまとめ」で重要な言葉を掲載しており、二次元コードを設けて学びの定着を図る工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、章ごとに「学びを活かそう」を設定し、習得した知識・技能を活用して日常生活に活かせる実践力を育む工夫が見られる。

50 大修館	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「課題をつかむ」では、学習課題につながる気付きを促す導入活動を提示し、興味・関心をもたせ、課題の解決に取り組む工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、覚えておきたい重要語句を「キーワード」として明示し、毎時間の学習の最後に、学びの定着を図る二次元コードを設けることで理解を深める工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単位ごとに「学習のまとめ」を設定し、自己の生活を見直し、自己の課題を修正できる実践力を育む工夫が見られる。
224 学 研	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「ウォームアップ」では、学習の課題に関連した身近な課題に気付かせ「エクササイズ」においてより深く考えさせる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各単位に関連する「章デジ」を設定し、二次元コードを活用することで、理解が深まるよう促し、身近な日常生活に生かせるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単位ごとに「学びを生かす」を設定し、学んだことを活用し、今後の生活に生かすための実践力を育む工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性については、1 単位時間の内容を見開き 2 ページに収め、各ページ左側本文、右側資料となっており、本文の内容に関する資料をすぐに確認できるなど、視線に配慮し、知識を確認するための資料の活用がしやすい工夫が見られる。 (2) 生徒にとっての分かりやすさについては、読みやすい文字の大きさや行間に配慮し、多彩なデジタルコンテンツを必要に応じて活用できる等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 学習効果や使用上の利便性については、1 単位時間の内容を見開き 2 ページに収め、本文を左ページ、本文に対応した資料を右ページに区切って掲載することで、本文を裏付け、知識を深める活動や資料から考察・推察する活動など幅広い授業を展開することができるような工夫が見られる。 (2) 生徒にとっての分かりやすさについては、はっきりとした色使いや統一したレイアウト、折り込み資料の採用等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。
50 大 修 館	(1) 学習効果や使用上の利便性については、1 単位時間の内容を見開き 2 ページに収め、学習の流れに沿って学習内容と関連する 4 種類のデジタルコンテンツを掲載することで、目的に応じて効果的に ICT を活用して学習を進めていくことができる工夫が見られる。 (2) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文が中央に配置されるようイラストや写真の配置、資料を囲む線のデザイン等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。
224 学 研	(1) 学習効果や使用上の利便性については、1 単位時間の内容を見開き 2 ページに収め、視覚的にゆったりとした紙面になっており、大きな判型の資料を掲載することで認識しやすく、本文の内容を資料から読み取りやすいなど学びやすさを高める工夫が見られる。 (2) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文にユニバーサルデザインフォントを採用し、イラスト等の配色を淡い色に統一することで、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 地域と連携した学習内容として、単元の「広げる」で、自分の通学路や地域の状況を振り返り、改善点を考えさせる学習が設定されており、単元で学習した内容を、命を守るための行動に繋げる工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、学習課題に『キーワード』を示し、『見つける』や『活用する』に、それぞれ直接ページに記入できるように配置されるなど工夫がされている。
4 大日本	(1) 地域と連携した学習内容として、単元の「地域で取り組みたい活動」をマーク付きで示しており、住んでいる地域で行われている活動を知り、自分がどのように行動すればよいか考えさせるための工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章末に『重要な言葉』がまとめられており、同頁内にある2次元コード『まとめの問題』との活用が図られる工夫がされている。
50 大修館	(1) 地域と連携した学習内容として、単元の「課題をつかむ」で、自分の暮らす身近なところでの具体例を考えさせる学習が設定されており、単元で学習した内容を実生活に生かすための工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各頁にある2次元コードによりデジタル教材と学習のまとめを活用するなどの工夫がされている。
224 学 研	(1) 地域と連携した学習内容として、単元の「学びを生かす」で、自分の住んでいる地域で行われている活動を調べる学習が設定されており、生徒が地域の活動に興味をもち、関わろうとする意欲を高める工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、『学習の課題』において、【わかる】【考える】に生徒の学習の姿を示し、探究の課題を設定するなどの工夫がされている。